

いじまも壁新聞

8月2日(土)に、「NPO いじめから子供を守ろう! ネットワーク関西」発足後初のシンポジウムが大阪で開催されました。

テーマは、「いじめは許さない!」子供たちの未来のために、学校に安全と安心を

会場の大阪市・鶴見区民センター2Fのホールは定員の200人を超え、立ち見の方も出るほどの満員となりました。



第二部のパネルトークでは、当日参加された皆さんから寄せられた質問や意見が紹介されましたが、実際にいじめられた体験を持つ方の声もあり、関西でのいじめ問題への関心の高さや、取り組みの必要性が、あらためて感じられました。

今回のシンポジウム開催にあたっては、大阪府教育委員会の後援を得ることができたことで、当NPOの信用度が増し、兵庫県・尼崎市教育委員会が、同市内の全小中学校へのポスター掲示をOKしてくれました。

第一部では、矢内代表の挨拶と「現代のいじめの実状について」の話。いじめの実話を童話にした『わたしのいもうと』の朗読には、会場全体が静かに耳を傾けて聞き入っていました。

「いじめから子供を守ろう! 関西」シンポジウム in 大阪

そして、「いじめくどう克服するか? アメリカの対策に学ぶ」と題する基調講演を、中京女子大学名誉教授の加藤十八氏よりいただきました。



加藤先生

加藤先生は、「アメリカでは、子供の自主性を尊重するという子供中心主義の教育で、一九七〇〜八〇年代は学校がたいへん荒れたが、「ゼロトレランス(寛容さ無し)方式」を取り入れることによって、今では非常に規律正しい状態になっている。日本は、アメリカが大失敗した子供中心主義の教育、例えば、厳しい校則をなくしたり、子供のしつけは家庭がするべきものだから学校はしなくて良い、などという指導方針を旧文部省が打ち出した。現在のいじめなどの問題を解決するためには、校則を見直し、ゼロトレランス方式で『してはいけないことは、してはいけない』と指導することが必要である。あらかじめルールを設定して、いじめたら必ず罰則を与えて対処しなければならぬ。また、道徳教育の見直しも必要である」と、強く訴えられました。

第二部では、初めに、ayanoさんがNPOのキャンペーンソング『未来、(あした)』を熱唱。会場の皆さんの手拍子で大いに盛り上がりました。



ayanoさん

パネルトークは、井澤事務長をコーディネーターに、最初に、子供さんがいじめられた体験を持つ田圃泉氏が、子供さんの勇気ある行動が、学校側のかたくな態度を変えたという話を披露。

保護監察官の堀田利恵氏は、問題を起こした子供たちが「学校で叱られたことがない」と言い、学校の外でなら逮捕されるようなことが、学校内で行われているという実態を明かされました。



田圃氏



堀田氏

「ゼロトレランス方式」の有効性について、加藤名誉教授は、「アメリカのある町では、この方式を学校に導入することによって、町全体の犯罪件数が激減した」という事例を紹介。「子供がいじめられていることに気づいたら、親はどうすれば良いか」という質問に、堀田氏は「5W1Hで、客観的な事実を明らかにし、毅然とした態度で対処することです」と。

教育コンサルタントの中野一秀氏は、自身の経験から「いじめられた子は自分から相談できない。気づいた親が、自分の子供を守る、という覚悟をしてすぐに介入すべき。その親の覚悟が子供に勇気を与えます」とアドバイス。



中野氏

矢内代表は「子供たちは、いいことをして褒められたいと思っている。子供にして良いことと悪いことを一つひとつ教える必要がある」と締めくくりました。

最後に、NPO関西の泉章子代表が閉会の挨拶。関西初のシンポは大成功でした!



泉代表